

東京都立町田工業高等学校 グランドデザイン(Ver.1.0)

<p><b>【生徒/学校の現状】</b> 現在は若年労働力が求められており、本校の就職希望者も、選びさえしなければ、卒業後どこかに就職できる状況にある。しかし、自らの専門性を活かせる職がなかったり、あったとしても選考方法（筆記試験等）への未対応などのため進路実現がならず、半ば不本意入社の者もいる。さらに、就職先を決める段階になって培ってきたスキルとはまったく関連のない業務を選択すると言った状況も見られる。</p>	<p><b>【教育目標】</b> ①人権尊重の精神をふまえ、誠実で協調性に富む人を育てる。 ②個性を伸ばし、独創性豊かな人を育てる。 ③勤労をたっとび、努力をおしまない人を育てる。 ④進歩する工業技術・情報技術に対応できる人を育てる。</p>
<p><b>【予想される社会の変化】</b> 人工知能(AI)の実用化による様々な分野での自動化やIoTの更なる拡大、ビッグデータの活用、仮想現実(VR)の実用化・日常化など、社会の情報化はますます高度化し、負の要素（セキュリティ面など）も含めより大きな社会変革をもたらす。</p>	<p><b>【学校像/学校経営計画】</b> 『モノづくり』と『コトづくり』を通じた『人づくり』を土台に、生徒に『考える力』をつけて卒業させる学校を目指す。</p>

**【目指すべき生徒の将来像（20年後の生徒の姿など）】**

卒業後（部門によっては専門学校等での就学の後）、自己の専門的なスキルを発揮できる企業に就職し（＝正規雇用され）、入社後は常に時間とコンプライアンスを意識し、OJT等を受けながら培ったスキル及び責任感を発揮して、ほぼ即戦力として業務に携わり、また、組織の一員として適切なコミュニケーションで他者と協調する。その際は、国際感覚を発揮し、英語による交流等を積極的に行う。また、やりがい・生きがいを持って職務を遂行するとともに、自己啓発を含めてスキルアップを続け、後進を育成する立場となって組織力の向上の一翼を担い、企業活動を通じて日本経済・世界経済を支える人材となる。

**【学校の教育活動全体を通して（教科横断的に）育成すべき資質・能力】**

STEAM（Science, Technology, Engineering, Art and Mathematics）教育を基盤として、ワークスペース・ラーニング（Workplace Learning）の7項目（①読解力・対話力、②協調性、③分析的思考、④知・マインド、⑤好奇心、⑥動機づけ、⑦リダ-性・責任感）を各教科学習活動や生徒会活動・部活動、学校行事を通してあらゆる角度から横断的に育成し、技術者としての優れた専門性と職業人としての社会的教養・態度を育成し、もってグローバルな世界で活躍し、自らの人生を豊かにするとともに、Society5.0を作り、支え、発展させて、持続可能な社会の実現に資する。

**【学校の教育活動全体を通して（教科横断的に）育成すべき資質・能力に基づくルーブリック】**

育成すべき資質・能力	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	
総合情報科としての専門性	共通の技術力	かなり時間がかかる割りに正確さに欠け、安全面でも心配がある。	時間はややかかるがある程度正確で、安全面ではほぼ心配ない。	標準的な時間内で、他者に配慮し正確で安全な作業が行える。	素早くかつ正確な作業を行い、他者へも指導ができる。	短時間で極めて正確かつ安全に作業し、他者への的確な指導ができる。
	情報デザイン系列	計算技術検定4級 プロフェシエンシー検定4級	色彩・デザイン検定等3級1種目取得基礎製図検定	色彩・デザイン検定等3級複数種目取得	ACA1種目取得 色彩・デザイン検定等2級を含む複数種目取得	ACA複数取得 色彩・デザイン検定等1級を含む複数種目取得
	情報テクノロジー系列		情報技術検定3級1種目以上取得	MOSスタンダード1種目以上 NWAセキュリティ情報技術検定2級1種目以上取得	NWA-RS1修了 MOSITパスポート1種目 ITパスポート取得 工事担任者DD3種	CCENT以上 MOSITパスポート全種目
	電気システム系列		基礎製図検定	3級 機械製図検定	第2種電気工事士 工事担任者DD3種	第1種電気工事士 工事担任者DD・AI 総合種
	機械システム系列		基礎製図検定			
ワークスペースラーニングの観点	読解力・対話力	教科書の文章を読んで、その内容のかなりが理解できない。様々な状況や環境で適切かつ効果的な対話法が示せない。GTEC can-do statements Grade1 程度の英語力がない	教科書の文章を読んで、その内容を概ね理解できる。様々な状況や環境で適切かつ効果的な対話法の兆候をわずかに示す。GTEC can-do statements Grade1 程度の英語力	教科書の文章を読んで、その内容を概ね理解できる。様々な状況や環境で適切かつ効果的な対話法をある程度示す。GTEC can-do statements Grade2 程度の英語力	教科書や専門書の文章を読んで、その内容をほとんど理解できる。様々な状況や環境で適切かつ効果的な対話法の証拠を十分に示す。GTEC can-do statements Grade3 程度の英語力	高度な専門書の文章を読んで、その内容を十分理解できる。様々な状況や環境で適切かつ効果的な対話法を十分に示す。GTEC can-do statements Grade4 程度の英語力
	協調性	ほとんどの場合、対立を生むような態度を取り、他のメンバーの意見に耳を傾けることも、対立を理解しようとすることもめったにない。	多くの場合、対立を生むような態度を取り、他のメンバーの意見に耳を傾げることに消極的で、対立を解決するのに苦戦する。	対立に対する迅速な解決策を模索するが、与えられた業務を終わらせるだけにとどまり、対立の解決策の提示し、両者の立場を考慮しない。	他のメンバーの意見に耳を傾け、対立を理解することで対立の前向きな解決策を模索するが、常に先を見越して対立解決を図る訳ではない。	他のメンバーの気持ち・悩み・意見・考えに耳を傾け、正しく認識した上で、対立に対して利害が一致するまで共通の解決策を模索する。
	分析的思考	結果を招いた原因を一切特定しようとせず、問題に対して解決策を考える際に一切ブレインストーミングをしない。	結果を招いた原因のいくつかを特定し、いくつかの解決策へのブレインストーミングを行うが、各リスト・マトリックスの評価は行わない。	結果を招いたいくつかの原因を特定し、1つの解決策でブレインストーミングを行いリスト・マトリックスの評価は行う。	結果を招いた様々な原因を特定し、1つの解決策に絞る前に2つでブレインストーミングを行い、各リスト・マトリックスの評価は行う。	結果を招いた様々な原因を特定した上で、慎重に1つに絞る。実行可能な解決策を慎重に1つに絞り、リスト・マトリックスの評価とテストを行う。
	知・マインド	質問をせず、学ぼうという意欲がない。仕事の遂行やタスクの実行について常に注意喚起が必要で、一人で仕事をさせると完了できない。	仕事の遂行やタスクの実行について注意喚起が必要なが多く、一人で仕事を完了できるが常に完全ではなく、水準も低い。	仕事の遂行やタスクの実行について注意喚起はめったに必要なく、一人で仕事を任せれば確実に完了するが、その質はあまり気にしない。	常に仕事に取り組み、予定通りに完了する。生部ことに意欲的で意識が高く、まず自分で複数の方法を試し、必要によって他者へ質問する。	常に仕事に取り組み、予定通りに完了、質の向上のためにあらゆる取り組みを行う。他者への質問の苗に、自身での解決に向けた努力をする。
	好奇心	継続的に登校するが、学校での活動（学習、生徒会活動・部活動、学校行事）に関心がなく、働きかけにも応じようとしない。それ以外で、自分が関心のあることにだけ反応し、行動する。	継続的に登校し、働きかけにも応じて学校での活動（学習、生徒会活動・部活動、学校行事）に目を向けて活動するが、それ以外で、自分が関心のあることに気持ちが傾きがちである。	継続的に登校し、学校での活動（学習、生徒会活動・部活動、学校行事）に対して、相応の関心を持って活動する。それ以外で、自分が関心のあることに気持ちが傾くが、上記の活動が基本となっている。	積極的に登校し、学校での活動（学習、生徒会活動・部活動、学校行事）、特に専門科目に強い関心を持って活動する。それ以外で、自分が関心のあることに気持ちが傾くが、上記の活動が中心となっている。	積極的に登校し、学校での活動（学習、生徒会活動・部活動、学校行事）のすべてに強い関心を持ち（特に専門科目）、新たな関心事を自ら見出す。それ以外で、自分が関心のあることにも積極的に対応する。
	動機づけ	自己改善の意識がなく、課題に取り組むに当たってサポートをうけようとする。失敗から学ぶことができると言う考えにいたらず、再チャレンジしない。	理屈では自己改善ができると思っているが、他者がそのためのサポート等を提供してもほとんど受け入れようとしない。成功よりも失敗の方に目が行く。	他者のサポート等を受け入れて課題克服しようとする。失敗位から学ぶ意識はあり、自分が向上することでもほとんどの困難は克服できると考える。	課題克服のためのサポート等を自ら探り、自分の弱点や強み、どうすれば自己を発揮・改善できるか、多くの場合内省でき、失敗に対して再チャレンジする。	困難に直面すると常に積極的にサポート等を探し、自分の強み、どうすれば自己を発揮・改善できるかを積極的に見つけ出し、状況で自分で管理できるように努力する。
	リダ-性・責任感	チームの活動に参加せず、メンバーの動機づけ・励ましをせず、多様な考え方の価値をまったく認識しない。	チームの活動には参加するが、メンバーの動機づけ・励ましをせず、多様な考え方の価値をほとんど認識しない。	チームの活動に参加しチームをまとめる助けをし、かつメンバーの動機づけ・励ましをせず、多様な考え方の価値をあまり認識しない。	チームの活動に参加しチームをまとめる助けをし、かつメンバーの動機づけ・励ましをせず、多様な考え方の価値を確実に認識しない。	チームの活動に参加しチームの形成とまとめを主導してメンバーの動機づけ・励ましをし、多様な考え方の価値を確実に認識する。

目指すべき生徒の将来像

「きたるべき次期社会（Society5.0）」は、「仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」と想定されている。その「システム」の開発・維持管理・拡充には、社会の隅々まで一定のITスキルを有した（特に若い）人材が行き渡っている必要がある。その人材こそが本校の目指すべき生徒像である。

※各校で、「資質・能力」の数や「レベル」の段階数は変更する。